

『大橋川改修工事と地域住民の立場』

平成20年3月1日

財団法人島根総合研究所 理事長
公認会計士 山根治

1. 大橋川改修工事(以下、改修工事)の概要と目的

- 1) 概要 — 平成16年12月
- 2) 目的2つ
 - ・ 市街地を守ること。
 - ・ 宍道湖の淡水時の水位をH. P. + 2. 5 m以下にすること。

2. ポイント、9つ。

- 1) 3点セットとは何か。
 - ・ 合意の有無、もともとは斐伊川の堤防決壊防止と利水。当初の実行予算。
- 2) 洪水による松江市街地の損害とは何か。
 - ・ 人的、物的。鉄砲水、土石流、津波、寄り回り波などとは異なること。
 - ・ 損害額？
 - 確率的な還元計算。
 - コスト・ベネフィット。
- 3) 改修工事によって失われるもの。— 自然的景観と歴史的景観他。
 - 1) 水郷松江のシンボル「大橋」、籠の鼻、八軒屋町、石垣(島石)、なぎさ(如泥石、3個)、降り口等、城下町の名残り(ラフカディオ・ハーンが愛し世界に紹介した大橋と橋姫さん)の消滅。
 - 2) 籠の鼻がなくなり、南側が20m拡幅され、川底の掘削がなされることによって、渦を巻くようなダイナミックな川の流れの消滅。
 - 3) 大橋川湿性地の消滅。
 - 4) 3つの公園の消滅。
 - ・ 大橋南詰(桜の古木)。
 - ・ 売布神社川端。
 - ・ 野津旅館前。
 - 5) 南北商店街の一体性の消滅。— 大橋と大橋川は街づくりの拠点。
 - 6) ヤマトシジミに壊滅的な打撃を与える可能性。
 - ・ 塩水の逆流。マウンド。
 - ・ ホトトギス貝の浸蝕。
 - ・ 冬の北西風と台風。

- ・ 大橋川に水門を設けて塩水の流入調整をする以外に防ぐ方法はない（坂本巖博士）。
- 7) 2. の湿性地（クリーク）の大半が消滅することによって、
- ・ 魚貝類の揺籃場がなくなる。
 - －本庄の海。
 - －長江干拓。
 - ・ 遡上魚の生存率が低下。
 - ・ 宍道湖の浄水機能が低下。
 - －諫早湾干拓と有明海。
 - ・ アオサギ、ダイサギ、コサギなどの営巣地の消滅。
- 4) シミュレーションについて。
- ・ ブラックボックス。
 - ・ 統計の扱い、流出率、滞留時間、大橋川流量（1, 600トン/S）、川の断面積等。
- 5) 2点セットにとどめ、改修工事を行わない場合。
- 1) 『平成18年7月豪雨における松江（大橋川）の水位のシミュレーション』（平成19年8月23日）
- 2) 『昭和47年7月洪水での治水対策後の想定水位』（平成20年2月25日）
- 3) 1/150確率の豪雨における大橋川の水位シミュレーション（未公表）
- * 1. によって明らかになったこと。
 - 平成19年に実施した堤防嵩上げ工事（8.5億円投入）でカバー。
 - * 2. によって明らかになったこと。
 - 3点セットの場合と2点セットの場合の水位差は30cm（1.27m～0.97m）。よって嵩上げ工事でカバー。但し、一部補充する必要あり。
 - * 3. によって明らかになったこと。
 - 改修工事の目的の一つ、H. P. + 2. 5以下に抑えることについてはクリアー。H. P. 2.36m。
- 6) 『大橋川周辺まちづくり検討委員会』とは何か。
- ・ 河川法の改正。
 - ・ 現在の委員会の問題点。
 - －地域住民の真の声が必ずしも反映されない。
- 7) 国家的観点から見た問題点。
- 1) 島根県の特異性－1人当り公共工事額は常に全国一。（改修工事に3,000億円という噂）。
- 2) 国家の財政難の折、大義名分が立つか。
- 3) 全国的レベルでの議論に耐えない。
- 4) 「美しい国日本」をめざして。
- 8) 地域住民としての提言。

- 1) 2点セットにとどめ、改修工事は中止する。
- 2) 洪水時の被害を減らすために
 - ・ 氾濫原を遊水地に。
 - ・ 家屋の移転、高床化。
 - ・ 水害保険の活用。
 - ・ 嵩上げ工事の補充と市街地への逆流防止策の補充。
- 3) 洪水時の漁船の活用。
- 9) 住民の意思によって中止された淡水化と中海干拓事業の教訓—いつかきた道。

—以上。